

子どもの抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受療システム整備 -KOKOROBO と子どもの精神疾患レジストリ連携-

研究代表者：佐々木 剛（国立大学法人千葉大学・医学部附属病院・こどものこころ診療部 <精神神経科兼任> 部長代理/准教授）

研究分担者：濱田 洋通（国立大学法人千葉大学・大学院医学研究院小児病態学・教授）

研究分担者：山崎 史暁（国立大学法人千葉大学・医学部附属病院・こどものこころ診療部 <精神神経科兼任> 助教）

研究分担者：小田 靖典（国立大学法人千葉大学・医学部附属病院・精神神経科・診療准教授）

研究分担者：新津 富央（国立大学法人千葉大学・大学院医学研究院精神医学・准教授）

当該年度の研究期間：令和6年4月～令和7年3月（3年計画の3年目）

要旨：

児童・思春期精神疾患レジストリによる客観的で多面的な評価の集積による状態像の正確な見極めは、子どもの自殺予防も含め、その後の治療成否を左右し、患者予後・QOLに大きく関わるものと考えられる。また、KOKOROBO等、オンラインによるメンタルヘルスケアシステムをより子どもが使用しやすくするための社会実装整備は、子どもの自殺予防において有効な可能性がある。精神疾患レジストリの集積やKOKOROBO等の社会実装整備は、小児科・精神科・児童精神科の有機的な連携による臨床研究を推進し、子どもの抑うつに対しより適切な評価と迅速な対応を推進する可能性がある。

令和4年度以降、千葉県の小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画（CHIBA TAIYO Project：Treatment Access Intervention for the YOung）を基に、千葉大学医学部附属病院小児科、精神神経科・こどものこころ診療部にて「KOKOROBO」等の社会実装とともに、適切な早期受療を推進し、子どもの精神疾患レジストリによる抑うつ状態の縦断的評価を行ってきた。

令和5年度は、更に千葉県小児科医会、精神科診療所協会、医師会、千葉市行政機関、千葉市教育委員会等と連携し、地域医療機関との連携における「KOKOROBO」等の社会実装と子どもの精神疾患レジストリの利活用の推進を目的とし、千葉市での「KOKOROBO」社会実装を完了した。令和6年度は銚子市にも社会実装を完了した。

Social Implementation of Tele-mental Health Care for Depression in Children and Development of Early Treatment System-Collaboration with KOKOROBO and Children's Registry of Mental Disorders

Principal Researcher:

Tsuyoshi Sasaki. (Associate Professor, Department of Child Psychiatry and Psychiatry, Chiba-University Hospital)

Co-Researcher:

Hiromichi Hamada. (Professor, Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Chiba-University)

Fumiaki Yamasaki. (Assistant Professor, Department of Child Psychiatry and Psychiatry, Chiba-University Hospital)

Yasunori Oda. (Clinical Associate Professor, Department of Psychiatry, Chiba-University Hospital)

Tomihisa Niitsu. (Associate Professor, Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Chiba-University)

The Current Research Period : April 2024 to March 2025 (3 year of a 3 year plan)

Summary:

The accurate determination of the state image due to the integration of the child and adolescent mental illness registry, including the prevention of suicide of children, will determine the success or failure of the child, including the prevention of children, and is greatly involved in the patient prognosis and QOL. Conceivable. In addition, the development of social implementation to make it easier for children to use online mental health care systems such as KOKOROBO may be effective in preventing children suicide. The accumulation of mental illness registry and the development of social implementation such as KOKOROBO promote clinical research in organic collaboration between pediatrics, psychiatry, and child psychiatry, and promote more appropriate evaluation and quick response to children's depression. there is a possibility.

Social implementation of KOKOROBO has been completed in Chiba City and Choshi-City with the CHIBA TAIYO Project (Treatment Access Intervention for the Young Project.)

1. 研究目的

本研究では、子どもの精神疾患レジストリの大規模なデータを収集し、客観的で多面的な評価から、児童・思春期精神疾患の状態像、治療成否、患者予後、QOL を正確に見極めることで自殺予防を推進することを目的とする。また、対応遠隔メンタルヘルスケアシステム「KOKOROBO」(<https://www.kokorobo.jp/>)等を用いて、抑うつ状態の患児の精神医学的評価と初期対応を実践した上で、精神科・児童精神科医に早期受療するシステムを構築することが、患児の病状改善、自殺予防に寄与するかを、子どもの精神疾患レジストリを用いて明らかにする。

2. 研究方法

「KOKOROBO」等の実践・社会実装と子どもの精神疾患レジストリの開発につき、研究代表者は国立精神・神経医療研究センターと既に共同している。この連携を継続し、児童版の「KOKOROBO」等の開発検討も進める。また、子どもの精神疾患レジストリでは、研究代表者は「こどもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化」を担当し、下記の基本情報と第2層情報の作成をすすめており、これらの客観的指標を継続的に蓄積する。以上のデータより、小児科医が対応遠隔メンタルヘルスケアシステム「KOKOROBO」を用いて、抑うつ状態の患児の精神医学的評価と初期対応を実践することが、精神科・児童精神科医に早期受療するシステムを構築し、患児の予後改善、自殺予防に寄与するかを評価する。

【子どもの精神疾患レジストリ：基本情報】

年齢、人種、身長・体重、精神科診断、併存疾患、既往歴、アレルギー、精神科家族歴、兄弟姉妹の有無、両親の婚姻状況、喫煙歴、飲酒歴、物質乱用・依存歴、行動嗜癖、在籍する教育機関、就学状況、居住状況、被虐待歴、人間関係の問題、他者への暴力問題、自傷、自殺企図、クロザピン治療歴、mECT歴、療育手帳の有無、心理社会的介入状況、障害福祉サービス利用状況、精神科入院歴、現在の処方、服薬状況、治療状況

【子どもの精神疾患レジストリ：第2層情報】

WISC-IV知能検査、WPPSI-III知能検査、田中ビネー知能検査、新型 K 式発達検査、SRS-2、ADHD-RS、SDQ、KINDL、EQ-5D-Y、SWLS、ULS (UCLA-LS3)

【研究計画を遂行するための研究体制について】

千葉大学医学部附属病院では、こどものこころ診療部と精神神経科が有機的に連携し、どの医師でも児童精神科診療を対応可能なシステムとしている。また、小児科からの緊急依頼に対し、早期のリエゾン介入と、早期受診相談サポート外来システムを整備してきた。また研究代表者は、千葉県の小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画（CHIBA TAIYO Project： Treatment Access Intervention for the YOUNG）を打ち出し、小児科・精神科・児童精神科の有機的な連携を強化している。さらに研究業務体制を推進するため、小児科での「KOKOROBO」等使用により早期の精神科診療が推奨された患児に対し、小児科からの紹介により速やかな診療を実施できる児童精神科医を特任助教として雇用する体制を整える。また「KOKOROBO」等を患児と家族が使用しやすくする援助者・子どもの精神疾患レ

ジストリの登録支援者としてのリサーチアシスタントを雇用し、その体制を強化する。研究分担者の濱田洋通は小児科医側の連携と体制強化を、山崎史暁は児童精神医学領域の連携と児童精神疾患レジストリ登録の推進を、新津富央と伊豫雅臣は精神科医側の連携と体制強化を推進する。

【研究全体の計画と年次計画との関係】

令和4年度：千葉大学医学部附属病院小児科、精神神経科・こどものこころ診療部にて「KOKOROBO」等の社会実装とともに、適切な早期受療を推進し、子どもの精神疾患レジストリによる抑うつ状態の縦断的評価を行ってきた。（オンライン業務体制等整備を中心に実施した。）

令和5年度：上記に加えて、千葉県小児科医会、精神科診療所協会、医師会、千葉市行政機関、千葉市教育委員会等と連携し、地域医療機関との連携における「KOKOROBO」等の社会実装と子どもの精神疾患レジストリの利活用の推進を目的とし、千葉市での「KOKOROBO」社会実装を完了した。

令和6年度（最終年度）：上記に加えて、児童相談所、療育機関、千葉県教育委員会と連携し、行政機関、学校等と医療機関の連携における「KOKOROBO」等の社会実装と子どもの精神疾患レジストリの利活用を千葉県全体で推進し、その効果判定を行うことで、全国の子どもの自殺予防モデルとして自殺対策基本法の政策形成に寄与できるようにする。令和6年度は銚子市への社会実装を完了した。

【倫理面への配慮】

担当医師は、被験者本人、被験者が未成年の場合には、被験者と被験者の代諾者（両親または法的保護者）に同意説明文書（代諾者用）を手交のうえ、研究の目的、内容等について詳細な説明を行い、被験者、代諾者の自由意思による同意を文書により取得する。また被験者が未成年の場合には、アセント文書も用いて、被験者本人から同意を取得する。アセント文書は内容が理解できるよう、平易な言葉で記載する。

試験実施に係る生データ類および同意書等を取扱う際は、被験者の秘密保護に十分配慮する。病院外に提出する症例報告書等では、被験者識別コードを用いる。試験の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにすることとする。試験の目的以外に、試験で得られた被験者のデータを使用しない。被験者の検体（睡眠データ）等を病院外に出して測定等を行う場合は、検体に被験者の個人情報添付せず、症例番号により管理する。症例番号と個人情報の照合は原則として実施責任者及び実施担当者のみにより行う。症例は対応表により管理する。あらかじめ被験者の同意を得ないで、同意説明文書で特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取り扱わない。

なお、「精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究：血液由来試料の解析と縦断データに基づく、子どもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化」では、すでに千葉大学医学部附属病院に倫理審査委員会にて承認されている。

3. 研究結果

令和4年11月より【領域1】子ども・若者に対する自殺対策（課題番号1-5）「子どもの抑うつに対

する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受療システム整備-KOKOROBO と子どもの精神疾患レジストリ連携-」を受託し事業を開始した。また、領域1のプログラムディレクターとして毎月の領域会議を実施した。

「レジストリやコホートにおける縦断データの利活用による、精神疾患の治療効果、再燃リスク及び予後に基づく均質集団の同定と層別化」精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究（代表：中込和幸）と協働しており、令和4年度は、「血液由来試料の解析と縦断データに基づく、子どもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化」研究の倫理審査は承認され、レジストリデータ取得を推進中である。精神疾患レジストリは大規模なデータを収集することにより、客観的で多面的な評価をすることを目的としている。児童・思春期精神疾患の状態像の正確な見極めは、自殺予防も含め、その後の治療成否を左右し、患者予後・QOLに大きく関わるものと考えられそのデータを蓄積してきた。

KOKOROBOは、メンタル不調の予防と不調のある方への早期手当、さらに必要な方に医療への橋渡しを行う、オンラインによるメンタルヘルスケアシステムであり、KOKOROBOの研究開発代表者（中込和幸）と協働してきた。令和4年度は千葉市における社会実装推進・連携に加えて、自殺予防においてKOKOROBO等がより子どもが使用しやすい手法を検討するため、当学精神科医・小児科医へのアンケート調査を実施した。

令和5年度は上記の継続に加えて、千葉県小児科医会、精神科診療所協会、医師会、千葉市行政機関、千葉市教育委員会等と連携し、地域医療機関との連携における「KOKOROBO」等の社会実装と子どもの精神疾患レジストリの利活用の推進を目的とし、千葉市での「KOKOROBO」社会実装を完了した。

また、千葉大学医学部附属病院では、こどものこころ診療部と精神神経科が有機的に連携し、どの医師でも児童精神科診療を対応可能なシステムとした。また、小児科からの緊急依頼に対し、早期のリエゾン介入と、早期受診相談サポート外来システム整備を推進している。このような千葉県の小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画をCHIBA TAIYO Project: Treatment Access Intervention for the Youngと名付け、小児科・精神科・児童精神科の有機的な連携と共に臨床研究を推進している。

研究業績の通り、論文では自殺と関連する児童思春期の各疾患（小児うつ病、思春期心的外傷後ストレス障害、児童思春期発達障害、COVID19と不安症、川崎病）の新規治療や評価方法、レジストリ形成の報告をした。また、特別講演・シンポジウム・学会報告等では、自殺対策のために、適切な早期介入による小児の気分障害・心的外傷後ストレス障害の難治化の予防のあり方、精神療法の実践、発達障害への適切な薬物療法、子どもを支える学校や地域社会とのネットワークづくり、医療倫理とチーム診療のあり方、コロナ禍とこどもこころにおける市民公開講座、その他学校医・養護教諭・スクールカウンセラー・弁護士・学生への教育指導を継続している。

なお、令和4年度、5年度の革新的自殺研究推進プログラム（領域1：子ども・若者に対する自殺対策）でのプログラムディレクターとして、毎月の領域オンライン会議と共に、研究代表者会議の司会を担当した。

令和6年度は、上記の継続に加えて銚子市での「KOKOROBO」社会実装を完了した。また、これらが活用されるように、千葉大学大学院医学研究院救急集中治療学のsmart119事業と連携し、こどものこころの理解・支援の社会実装として9万人以上をフォロワーに持つSNS（X旧：twitter）を活用し、こどもと保護者に届きやすいような漫画を用いて、うつと自殺対策の啓蒙活動を継続している。また、当院救急科に搬送された自殺企図児童全例の迅速な精神医学的評価・対応と、多職種による児童虐待対

応チーム（FAST: Family Support Team）の多面的評価による地域・行政連携を継続した。さらに千葉大学子どもの心の発達教育研究センターと連携し、千葉県教育委員会、千葉県内の高校と連携し子どものストレスチェック事業を協働した。第120回日本精神神経学会総会では児童精神科医療委員会のシンポジウム（こどもの自殺をめぐる）において、「発達障害と自殺」「虐待・いじめと自殺」「ネット環境と自殺」「自殺防止のための新たな試み（佐々木剛発表）」と多面的視点からこども自殺について全国の精神科医と検討した。レジストリデータは91症例の同意を得た。

4. 考察・結論

児童・思春期精神疾患レジストリによる客観的で多面的な評価の集積による状態像の正確な見極めは、子どもの自殺予防も含め、その後の治療成否を左右し、患者予後・QOLに大きく関わるものと考えられる。また、KOKOROBO等、オンラインによるメンタルヘルスケアシステムをより子どもが使用しやすくするための社会実装整備は、子どもの自殺予防において有効な可能性がある。児童・思春期精神疾患レジストリの集積やKOKOROBO等の社会実装整備は、小児科・精神科・児童精神科の有機的な連携による臨床研究を推進し、子どもの抑うつに対しより適切な評価と迅速な対応を推進する可能性がある。

5. 政策提案・提言

児童・思春期精神疾患レジストリの集積やKOKOROBO等のオンラインによるメンタルヘルスケアシステムの社会実装整備は、小児科・精神科・児童精神科の有機的な連携による臨床研究を推進し、子どもの抑うつに対しより適切な評価と迅速な対応を推進する可能性があり、こども基本法の基本理念である「全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進」することに寄与すると考えられる。

6. 成果外部への発表

（1）学会誌・雑誌等における論文一覧（国際誌5件、国内誌8件）

1. Takuya Saito, Hidetoshi Takahashi, Noa Tujii, Tsuyoshi Sasaki, Yuta Yamaguchi, Masahiro Takatsu, Masaki Sato

Efficacy of Preventing Relapse Evaluated by A Multicenter, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Withdrawal Study of Escitalopram in Japanese Adolescents with Major Depressive Disorder. Journal of Child and Adolescent Psychopharmacology (2024)

2. 佐々木剛, 杉田克生ほか

神経発達症児童への包括的治療教育プログラムガイドブック（第2版、第3版、第4版）

CHIBA TAIYO Project：小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画 /

アジア・アセアン教育研究センター（2021,2023, 2024）

3. Masatoshi Yamashita, Kuriko Kagitani-Shimono, Yoshiyuki Hirano, Sayo Hamatani, Shota Nishitani,

Akiko Yao, Sawa Kurata, Hirotaka Kosaka, Minyoung Jung, Tokiko Yoshida, Tsuyoshi Sasaki, Koji Matsumoto, Yoko Kato, Mariko Nakanishi, Masaya Tachibana, Ikuko Mohri, Kenji J Tsuchiya, Tetsuya Tsujikawa, Hidehiko Okazawa, Eiji Shimizu, Masako Taniike, Akemi Tomoda, Yoshifumi Mizuno
Child Developmental MRI (CDM) project: protocol for a multi-centre, cross-sectional study on elucidating the pathophysiology of attention-deficit/hyperactivity disorder and autism spectrum disorder through a multi-dimensional approach
BMJ Open 13(6) e070157-e070157 (2023)

4. Keita Idemoto, Tomihisa Niitsu, Akihiro Shiina, Osamu Kobori, Misaki Onodera, Kiyomitsu Ota, Atsuhiko Miyazawa, Masumi Tachibana, Makoto Kimura, Ryota Seki, Tasuku Hashimoto, Kensuke Yoshimura, Shoichi Ito, Michiko Nakazato, Yoshito Igarashi, Eiji Shimizu, Masaomi Iyo
Association between precautionary behaviors against coronavirus disease and psychosocial factors in outpatients with a pre-existing disease and their attendants
Psychiatry Clin Neurosci Rep. 2023 Sep;2(3) e141. doi.org/10.1002/pcn5.141

5. 佐々木剛

「特集」いま、知っておきたい発達障害 Q&A 98 (分担執筆：日常臨床の発達障害の診断に使いやすいツールを教えてください)
精神医学 65(5) (2023)

6. 佐々木剛, 中込和幸, 伊豫雅臣

血液由来試料の解析と縦断データに基づく、子どもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化
精神科 42(6) 769-773 (2023)

7. Tsuyoshi Sasaki, Kenji Hashimoto, Tomihisa Niitsu, Yutaka Hosoda, Yasunori Oda, Yuki Shiko, Yoshihito Ozawa, Yohei Kawasaki, Nobuhisa Kanahara, Akihiro Shiina, Tasuku Hashimoto, Takaaki Suzuki, Takeshi Sugawara, Hideki Hanaoka, Masaomi Iyo
Ifenprodil tartrate treatment of adolescents with post-traumatic stress disorder: a double-blind, placebo-controlled trial
Psychiatry Research 311 114486-114486 (2022)

8. Kobayashi H, Kimura MY, Hasegawa I, Suganuma E, Ikehara Y, Azuma K, Ito T, Ebata R, Kurashima Y, Kawasaki Y, Shiko Y, Saito N, Iwase H, Lee Y, Noval Rivas M, Arditi M, Zuka M, Hamada H, Nakayama T. Increased Myosin light chain 9 expression during Kawasaki disease vasculitis. Front Immunol. 2023;13:1036672. doi: 10.3389/fimmu.2022.1036672. eCollection 2022. PMID: 36685558

9. 佐々木剛ほか 統合失調症薬物治療ガイド 2022 ワーキンググループ, 統合失調症薬物治療ガイド 2022 -患者と支援者のために-, 日本神経精神薬理学会 (2023)

10. 佐々木剛, 遅発性ジスキネジアと QOL -統合失調症薬物治療ガイドライン委員の経験から-, 臨床精神薬理 26(1):37-40 (2023)

11. 佐々木剛, 摂食障害治療 -児童青年期と成人期の相違点・注意点・変わらぬ視点- (特集 児童青年期の摂食障害治療アップデート), 児童青年精神医学とその近接領域 62(5):636-643 (2021)

12. 齊藤卓弥*, 高橋秀俊, 辻井農臣, 佐々木剛, 山口悠太, 高津正寛, 佐藤雅紀

日本人青年期うつ病患者を対象とした escitalopram の多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間治療中止試験による再燃予防効果の検討【二次出版】

臨床精神薬理 (27) 971-986 (2024)

Retrieved from <https://cir.nii.ac.jp/crid/1520583413869384448>

13. 佐々木剛

神経発達症—児童精神科の視点から— ～CHIBA TAIYO Project から小児科先生へのメッセージ～
小児科診療 88(2) 175-179 (2025)

doi.org/10.34433/pp.0000001443

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表 (国際学会等 1 件、国内学会等 27 件)

1. 佐々木剛 (2024) 自殺防止のための新たな試み

第 120 回日本精神神経学会学術総会 児童精神科医療研修委員会シンポジウム：こどもの自殺をめぐって (札幌コンベンションセンター) 1

2. 佐々木剛 (2024) うつ病診断と治療の現在と未来 -こどものうつの理解から-

2024 年度 第 1 回千葉県精神科専門・認定薬剤師講習会 (オンライン)

3. 佐々木剛 (2024) 愛着障害と発達障害 ～児のよりよい育ちのために、コロナ禍を経て必要な想像力～

女性支援・児童虐待相談新任職員研修 (III 部) (千葉県健康福祉部児童家庭課)

4. 佐々木剛 (2024) キャリアパス形成における医局の意義 -妊娠・出産・育児をテーマに- (医局長報告)

千葉大学精神医学教室 令和 6 年夏の同門例会 (京成ホテルミラマーレ)

5. 佐々木剛 (2024) こどものこころが「整う」ために -認知行動療法の視点から-

第 42 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 シンポジウム こころを整える (御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)

6. 佐々木剛 (2025) 発達障害について -愛着障害・心的外傷後ストレス障害との関係も含めて-

第 17 回千葉県子どもの死因究明等の推進に関する研究会

7. 佐々木剛 (2024) ADHD の診断・評価における 小児期、成人期の工夫
日本 ADHD 学会 第 15 回総会ランチョンセミナー
8. 齋藤直樹、本村あゆみ、日野もえ子、千葉文子、猪口剛、星岡佑美、仙田昌義、石原憲治、濱田洋通、岩瀬 博太郎 (2024)
信仰が関与した可能性のある 10 代死亡事例 ―モデル事業以外の CDR を通じて―
第 29 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会
9. 佐々木剛 (2023) 適切な早期介入による難治化の予防 -こどもの気分障害と心的外傷後ストレス障害-
第 26 回日本精神保健・予防学会学術集会 シンポジウム① 「適切な早期介入による難治化の予防:児童精神医学の視点から (千葉大学医学部亥鼻キャンパス・医学系総合研究棟)
10. 佐々木剛 (2023) 注意欠如・多動症 (ADHD) の薬物療法 -RCT と RWE-
第 33 回 日本医療薬学会年会 薬物療法集中講義企画・運営小委員会企画シンポジウム 質の高い専門薬剤師を目指して ～多様化する薬物療法の専門家になろう！～ (仙台国際センター)
11. 佐々木剛 (2023) 子どもを支える学校や地域社会とのネットワークづくり 子どもの精神医学における治療論 - 技法・その 2 精神神経学会 第 19 回児童精神科医療研修会 (仙台市中央企業活性化センター)
12. 佐々木剛 (2023) 医療倫理とチーム診療 -屋根瓦式教育・指導体制の視点から-
機構専門医共通講習 (医療倫理) 第 12 回 日本精神科医学会学術大会 (熊本城ホール)
13. 佐々木剛 (2023) 子どもを支える学校や地域社会とのネットワークづくり
「小児精神医療入門：新シリーズ (6)」子どもの精神医学における治療論 - 技法・その 2
第 119 回 日本精神神経学会学術総会ワークショップ (パシフィコ横浜)
14. 佐々木剛 (2023) コロナ禍、そしてこれからの子どものころ -見えない敵との戦いかた-
第 119 回 日本精神神経学会学術総会 市民公開講座 (パシフィコ横浜)
15. Tsuyoshi Sasaki (2023) Ifenprodil Tartrate Treatment of Adolescents With Post-traumatic Stress Disorder: a Double-blind, Placebo-controlled Trial.
The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (ASCAPAP) 2023 in Kyoto, Japan Research Topics 19 (Kyoto International Conference Center)
16. 佐々木剛 (2022) こどものこころの診たてと工夫 ―ADHD 児の本音を奏でる―
第 127 回 日本小児精神神経学会 (白河文化交流館コミネス)

17. 佐々木剛 (2022) CHIBA TAIYO Project 2022
-千葉県 小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画での児童精神医学教育システム-
第 118 回日本精神神経学会学術総会 委員会シンポジウム (小児精神医療委員会)
これからの児童精神医学教育システムを見つめる (福岡国際会議場)
18. 佐々木剛 (2022) 認知行動療法と対人関係療法
「小児精神医療入門:新シリーズ (5) 子どもの精神医学における治療論 - 技法・その 1」
第 118 回日本精神神経学会学術総会 ワークショップ (小児精神医療委員会) (福岡国際会議場)
19. 佐々木剛 (2022) コロナ禍での子どものころについて 第 222 回 日本小児科学会千葉地方会
第 1463 回 千葉医学会分科会 (千葉大学医学部附属病院)
20. 佐々木剛 (2022) 救急看護師のメンタルヘルスについて のび太くんやドラえもんから学ぶ 「こころのセルフケア」第 72 回日本救急医学会関東地方会学術集会、第 59 回救急隊員学術研究会 看護師部門 セミナー (オンライン)
21. 佐々木剛 (2022) コロナ禍における子どものメンタルヘルス
令和 3 年度 千葉県医師会学校医講習会 (オンライン)
22. 佐々木剛 (2022) 日本精神神経学会 第 15 回小児精神医療研修会「睡眠関連障害」
23. 佐々木剛、伊豫雅臣 (2023)
児童精神医学研修とキャリアパス -子どものこころの診療ネットワークの今後について-
第 1481 回 千葉医学会例会 第 40 回 千葉精神科集談会
24. 佐々木剛 (2023) 被虐待と PTSD の治療, 2022 年度第 3 回千葉県児童虐待対策研究会地区部会
25. 佐々木剛(2023) こどもにとって良い眠りとは? 第 3 回子どもの発達とトラウマ研究会
26. 佐々木剛、伊豫雅臣、TAIYO Project Team (2022)
CHIBA TAIYO Project 2022 小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画
第 1458 回千葉医学会例会 第 39 回千葉精神科集談会
27. 佐々木剛 (2022) ADHD の地域医療連携構想 ND Symposium
28. 佐々木剛 (2022) シンポジウム「子どものこころを救う：介入研究の試み」 脳科学研究から繋ぐ
心的外傷後ストレス障害の新規治療開発, 第 49 回日本脳科学会

(3) その他外部発表等

1. 佐々木剛 (2024) 子どもの発達における愛着形成の大切さと支援方法 -児のより良い育ちのために、コロナ禍を経て必要な想像力-
令和6年度第1回香取保健所管内母子保健従事者研修会 (香取市役所)
2. 佐々木剛 (2024) こどものこころの診立て -学校・スクールカウンセラーとの連携について-
令和6年度 第2回 千葉スクールカウンセラー研修会 (オンライン)
3. 佐々木剛 (2025) こどものこころの病について ～周りの大人ができること～
松戸市児童虐待防止ネットワーク 令和6年度 第2回医療機関ネットワーク研修会
4. 佐々木剛 (2024) コロナ禍、そしてこれからの子どものこころ
市民公開講座 若者のこころの健康セミナー (銚子市)
5. 佐々木剛 (2024) 児童生徒の思春期における心と発達 -皆様の質問にお答えします
令和5年度 第3回千葉市スクールカウンセラー連絡会議 教育講演
6. 佐々木剛 (2023) 愛着障害と発達障害 -子どもの成長と発達、そして自身に必要なこと-
千葉県弁護士研修会
7. 佐々木剛 (2023) コロナ禍、そしてこれからの子どものこころ -養護教諭にお願いしたいこと-
令和5年度千葉市養護教諭全体研修会 教育講演
8. 佐々木剛 (2023) 自分のこころを守る方法
令和5年度船橋市学校事務職員研修 教育講演
9. 佐々木剛 (2023) 児童虐待と心的外傷後ストレス障害 -小児科医・精神科医の皆様をお願いしたいこと-, 船橋メンタルヘルス懇話会 教育講演
10. 佐々木剛 (2023) 愛着障害と発達障害 -子どもの成長と発達、そして自身に必要なこと-
令和5年度千葉県弁護士会研修会 教育講演
11. 佐々木剛 (2022) 子どもの摂食障害 診療の実際について
令和4年度 千葉スクールカウンセラー研修会千葉市ブロック 教育講演
12. 佐々木剛, 愛着障害と発達障害 -子どもの成長と発達、そして自身に必要なこと-, 千葉県弁護士研修会 (2023.3.30. 千葉県弁護士会館)
13. 佐々木剛, Smart119 Twitter (千葉大学医学部 救急集中治療医学 中田孝明教授主催) メンタルへ

ルス啓発漫画監修,「誰にでも起こりうる PTSD とは」「コロナ感染に不安になる人へ」「コロナ禍の子どものメンタルケア」「自殺を考えているひとがいたときの5ステップ」「"コロナうつ"かも? と思ったら」<https://smart119.biz/manga/>

14. 令和4年度、5年度の革新的自殺研究推進プログラム(領域1:子ども・若者に対する自殺対策)でのプログラムディレクターとして、毎月の領域オンライン会議と共に、研究代表者会議の司会を担当。

15. 日本精神神経学会 児童精神科医療委員会委員、児童青年精神医学会代議員、千葉児童思春期精神医学研究会世話人、千葉市教育委員会いじめ等の対策及び調査委員会委員、千葉県教育支援委員会委員として活動を継続中。

7. 引用文献・参考文献

1. Ifenprodil tartrate treatment of adolescents with post-traumatic stress disorder: a double-blind, placebo-controlled trial.

Tsuyoshi Sasaki, Kenji Hashimoto, Tomihisa Niitsu, Yutaka Hosoda, Yasunori Oda, Yuki Shiko, Yoshihito Ozawa, Yohei Kawasaki, Nobuhisa Kanahara, Akihiro Shiina, Tasuku Hashimoto, Takaaki Suzuki, Takeshi Sugawara, Hideki Hanaoka, Masaomi Iyo. Psychiatry Research. 114486-114486. (2022 年)

2. 小児救急重篤疾患登録調査(Japan Registry System for Children with critical disease:JRSC)から見えてきたこと 死亡症例のまとめ(原著論文).

小保内俊雅, 長村敏生, 平本龍吾, 伊藤陽里, 小山典久, 山本英一, 岡田広, 田村卓也, 村田祐二, 窪田満, 木崎善郎, 藤田秀樹, 神園淳司, 井上信明, 浮山越史, 佐藤厚夫, 種市尋宙, 古野憲司, 濱田洋通, 玉木久光, 清澤伸幸. 日本小児救急医学会調査研究委員会

日本小児救急医学会雑誌 (1346-8162). 20 巻 3 号. p505-509. (2021 年)

3. CHIBA TAIYO Project Treatment Access Intervention for the YOung -小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画- 佐々木剛

第8回地域総合小児医療認定医指導者研修会(招待講演)(2021 年)

4. COVID-19 と子どもの摂食障害 佐々木剛

母子保健医療対策総合支援事業子どもの心の診療ネットワーク事業 中央拠点病院主催

有事の際の子どもの心のケア連絡会議(招待講演)(2021 年)

5. これからの小児科医がめざす小児保健・医療の方向性(解説)

大山昇一(日本小児科学会), 赤嶺陽子, 福原里恵, 荒堀仁美, 石毛崇, 石崎優子, 伊藤友弥, 江原朗, 日下隆, 種市尋宙, 濱田洋通, 平本龍吾, 儘田光和, 道端伸明, 坂東由紀, 金城紀子, 松原知代, 平山雅浩. 日本小児科学会働き方改革検討ワーキンググループ

日本小児科学会雑誌 (0001-6543). 125 巻 3 号. p540-544. (2021 年)

6. 児童虐待防止にむけた小児科医の地方公共団体への協力の実態と課題

三平元, 濱田洋通, 藤井克則, 中島弘道, 佐藤好範.

日本小児科学会誌. 124 巻 p709-714. (2020 年)

7. 「コロナ感染に不安になる人へ」「コロナ禍の子どものメンタルケア」「自殺を考えているひとがいたときの 5 ステップ」「"コロナうつ"かも? と思ったら」「誰にでも起こりうる PTSD とは?」「誰にでも起こりうる!? 産後うつ、予防方法とは?」

佐々木剛 Smart119 Twitter (救急集中治療医学 中田孝明教授主催) メンタルヘルス啓発漫画監修 (社会実装活動) <https://smart119.biz/manga/> (2020 年-)

8. Increased Serum Levels of Oxytocin in ‘Treatment Resistant Depression in Adolescents (TRDIA)’ Group.

Tsuyoshi Sasaki, Kenji Hashimoto, Yasunori Oda, Tamaki Ishima, Madoka Yakita, Tsutomu Kurata, Masaru Kunou, Jumpei Takahashi, Yu Kamata, Atsushi Kimura, Tomihisa Niitsu, Hideki Komatsu, Tadashi Hasegawa, Akihiro Shiina, Tasuku Hashimoto, Nobuhisa Kanahara, Eiji Shimizu, Masaomi Iyo. PLoS One, 18;11(8):e0160767.(2016 年)

8. 特記事項

(1) 健康被害情報

なし

(2) 知的財産権の出願・登録の状況

なし